

(案)

## 農薬評価書

# クロルピリホス

(第4版)

【抜粋】

2017年12月21日

食品安全委員会農薬専門調査会

1   **(3) 発生毒性試験（ラット）②**

2       SD ラット（一群雌 32 匹）の妊娠 6～15 日に強制経口（原体：0、0.5、2.5 及  
3       び 15 mg/kg 体重/日）投与して、発生毒性試験が実施された。本試験において、  
4       赤血球及び脳 ChE 活性は測定されなかった。

5       母動物では、15 mg/kg 体重/日投与群の 3 例に振戦（試験後期、詳細不明）が  
6       認められ、軽度の体重増加抑制（発現時期不明）及び摂餌量減少（発現時期不明）  
7       が認められた。

8       胎児については、15 mg/kg 体重/日投与群で着床後胚死亡が僅かに増加した。  
9       着床後胚死亡の増加は、母動物毒性に関連したものと推察された。全投与群で着  
10      床前胚損失の増加が認められたが、用量依存性はなく、胚損失率は本試験実施施  
11      設の背景対照値の範囲内であり、検体投与の影響ではないと考えられた。胎児の  
12      外表、内臓及び骨格の観察において、変異、奇形等の発生頻度に対照群と投与群  
13      との間に有意差はなかった。

14      本試験において、15 mg/kg 体重/日投与群の母動物で振戦等、胎児で着床後胚  
15      死亡の増加が認められたので、無毒性量は母動物及び胎児で 2.5 mg/kg 体重/日  
16      あると考えられた。催奇形性は認められなかった。（参照 71）